

カボチャ(南瓜)のカルテック施肥例 (10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早めに (定植20日前迄に) 全面に投入して、 耕耘します (土壌全体に肥料分 が行き渡るように) ※茎葉残渣は是非 鋤き込んで下さ い。	ラクトバチルス 600g … 排水よく、安定した土を作ります。 堆肥 1~2トン (もし有機物がなければ 米ヌカ 150kg 以上) 硫安 30kg (もし複合肥料ならN成分:6kg 程度)… 追肥をする場合 ※追肥をしない場合は、 硫安50kg(N:10kg) を施します。 もしも堆肥・有機物が無く、砂地の場合は 硫酸カリ10kg追加。 ※このチツンは有機化し、緩効的に効きます。 植付け時には土壌EC: 0.1~0.2 (0.3未満)に安定していることが、絶対に大事です。 カボチャは吸肥力が強く、チツン過多になりやすいので、特に注意。 ※もしも土壌pH:5.8以下と酸性の場合は この時にも 畑のカルシウ ムを 30kg前後 追加して下さい。(これは前作に不足だった分です)
本畑の整地時	整地・ウネ作り時 に全面散布 (畑土全面または ウネの全面に、均 等に散布し、なる べく土に混ぜます)	畑のカルシウム 40kg ※土壌が特に高pH・高ECの場合は、カルテックCa粒状を使います。 ※ 初期に、チツンより カルシウムが強いバランスにしてください。 土に肥料分が多い場合は 畑のカルシウムを 60~80kgに。 カボチャでは、定植直後に伸びた根が吸収を始める栄養バランス で、開花・着果・果実品質まで決定しますので、カルシウムを多め に。
育苗 播種箱 7日間 20℃ 移植床 (ポット) 23日	床土 (培土) 灌水は早朝に。 (後半は夕方でも可) 灌水・散水時に 二つの液を交互 に使用(4日ごと) 葉上から培土まで 染み込むようタツプ リと散布。 右記[1]~[6]は 育苗の一例です。	培土に 畑のカルシウム3% ほどを混和しておく…苗の充実 濃縮酵素液 (1000~500倍) … 根を強く動かし、生長を促進 カルテックCa液状 (1000~500倍) … 茎葉を厚く充実させ、花芽促進 [1]播種・覆土後、酵素液1000倍で温湯灌水…発根・発芽を揃える [2]発芽後2日(鉢上げ前日)Ca液状1000倍で灌水…双葉苗の充実 [3]鉢上げ時、酵素液1000倍で タツプリ灌水…活着・発根促進 [4]鉢上げ3日後、Ca液状1000倍で灌水…苗質の充実(徒長防止) <本葉2枚まで、夜温18℃、[3][4]を3日ごと交互に繰返し> [5]本葉2枚になったら、Ca液状 500倍散布、翌夜から夜温12℃に <以後、4日ごとに酵素液・Ca液状 500倍散布を交互に繰返し> [6]定植7日前に ズラシ(鉢間隔20cm)後、酵素液 500倍で散布 3日後(定植4日前、摘芯2日前)に Ca液状 500倍で充実させる
定植時	直播きの場合、 2葉で間引き後 酵素液を灌水 苗へ散水・ドブ漬 け・定植前にタツプ リ迎え水・定植後 の灌水…いずれか の方法で。	濃縮酵素液 2~5リットル灌水 (希釈倍率は 500 倍程度で適宜) ※活着・深層への根張り促進。 決してチツンは効かせないこと! 鉢土を落とさないように やや浅めに定植し、タツプリ深く灌水する。 ※この頃(主枝が残してあれば本葉5枚)、既に16節までの花芽分化 は済んでいます。花質・果質の半ばは育苗と定植前後迄に決定済み。 【注意】ツル長50cm位の頃(側枝仕立てなら整枝・誘引時)にチツン肥料 を施すことは 決してしないで下さい。もし草勢強化が必要なら、酵 素液の灌水か葉面散布が効果的です。 雌花の開花・着果時にチツン少なめ、カルシウム充分な栄養状態 にしておけば、果端(尻)が一円玉くらいに小さく、糖度も上がりま す。
雌花前	定植後7日 ~23日 一番果の花前	カルテックCa液状 500倍 葉面散布 、または 2リットル灌水 ※ カルシウム で着果よく、草勢が旺盛すぎず、ウドンコやベトも少ない。 ※低節位(7節まで)に実が着いたら(奇形化しやすいので)、摘果。 8節~10節の雌花に一番果を授粉します。(低温期は人工交配)

		その後、4～5節ごとに雌花が着生するので、1株3果程となります。	
追肥	一番果の着果後、ツル先(10cm)に	硫安 20kg 畑のカルシウム 20kg	同量・同時に散布(一握りずつ)。ただし草勢を見て量を調節。
仕上げ	着果後35日、収穫10日前頃	(玉直し時) カルテックCa液状 500倍 葉面散布	…糖度・旨味増加

「苧びす」等の西洋カボチャの施肥です。「菊座」等の日本系品種では施肥量を3割ほど減らして下さい。